資料３

第４回会議の委員意見反映箇所

	委員	提言書関連部分	意見要旨	提言書への反映状況	
				反映箇所	反映案
1	玉城委員	意義、目的 考え方	今、企業でもパーパス経営（企業が「目的」や「存在意義」を主軸にして事業を進めていく経営モデル）という考え方がある。何のために私たちはザル経済でない、沖縄の観光を持続可能にさせていくのかということで提言書がまとめられていくと理解している。こういう事例を勉強して知ることは大事だと思いつつも、事例は国内外にたくさんある。あれもこれもやるということではなく、今後パーパスに向かってやっているということがもう少し整理されると非常に分かりやすくなると思う。例えば、未来においても沖縄らしい原風景を残すためにやる、沖縄の人が暮らしていくためにも沖縄の観光は大切なものという目的を示さないと、私は観光には関係ないと捉えられてしまう。目指すものがあり、暮らしにも密接に関わっていると自覚してもらうことで、個人や組織として何ができるのか、県や市町村単位で何ができるのかということを考えてもらうことができる。 パーパス（目指したい方向性の指針や理念）を整理し、取組につなげた方が良いと思う。	P1 11～16行目 P31 3～11行目	１⑵「会議設置の意義・目的」にＲ３年度「稼ぐ力の万国津梁会議提言」を踏まえた方針や理念を追記しました。 ５⑴に＜本提言の目的＞の項目を追加し、方針や理念を記載ました。
2	下地副委員長	既存統計による現状分析・経済波及効果	参考資料1に関して、Ｐ４にある観光収入と経済波及効果の1兆1702億円というのは、P5にある域内調達率を加味した効果とリンクしているのか。	P4 ５行目	２⑴「〈経済波及効果〉」に「自給率等を加味し」を追記しました。
3	下地副委員長	既存統計による現状分析・消費単価	資料１p.3(3)の世帯年収別観光消費は誤解を招く数値だと思う。今沖縄に来ている観光客は、富裕層では１泊数十万円のホテルに宿泊されている方もいるので、平均値を見せるだけでは実態を表していない。宿泊も含め、消費は多様化しているのが現実だと思う。まずは実態として観光消費額は低額から高額まで非常に幅広いという前提で、次の経済波及効果をどう高めていくかという議論をしていかなければいけないと思っている。	P7 4～5行目	２⑶「〈世帯年収の消費単価〉」に平均値であることや、多様化している可能性があること等を追記しました。
4	平良委員	考え方	もう少し掘り下げてほしいと思ったのは、提言の「②沖縄の優位性の活用」の部分。ここに、1000万人の観光客が来ていると書いてあるが、それは流れの中で結果として優位性となっているだけであり、なぜ沖縄に1000万人も来ているのか、他の地域に絶対に負けないことは何かということが示されていない。気候が温暖だから優位性があるとか、沖縄に元々ある生活習慣というものを守っていれば沖縄の人たちは長寿だとか、植物が育つ島が持つ土地・土・塩度だとか、琉球王国であったとか、絶対的に変わらない具体的な優位性を県民に示す必要があるのではないか。	P31 24～35行目	５⑴考え方に「⑤沖縄の優位性の活用」の項目を追加し、優位性について記載しました。
5	平良委員	考え方	高額消費をする方は沖縄の何に魅力を感じて来るのか。もっとわかりやすく、例えば、１泊5000円程度のホテルが何軒、10万円以上のホテルが何軒あり、そこのキャパがどのくらいあるのかが分かる資料を提示すれば、それぞれの企業にとってのターゲットが見えてくるのではないか。 県が行っている「おきなわブランド戦略」について、R6年３月策定とされているので、この事業とリンクしていると思う。平均値ではなく、階層別の数値が出てくれば、我々のような事業者にとってのターゲットがどこなのかがわかる。ターゲットに対して、沖縄の優位性のどこを大事にすべきかを考えられるような、優位性の書き方をしてほしい。	P31 24～35行目	５⑴考え方に「⑤沖縄の優位性の活用」の項目を追加し、優位性について記載しました。

	委員	提言書関連部分	意見要旨	提言書への反映状況	
				反映箇所	反映案
6	玉城委員	考え方	年明けに県の仕事でハワイに行った。ワイキキビーチの目の前のホテルに泊まったのでそこそこのランクのホテルであったが、基本的にアメニティがなく、シャンプーなどはハワイで取れたものをポンプ式で使うことが当たり前になっていた。移動も３～５ドル程度で島を巡れる仕組みになっている。日本人（向け）のアプリも開発されているので、言葉が通じなくても回ることができる。ウーバー（ライドシェア）も発達しているので、タクシーより安く移動できる。ハワイではいつでもアロハ（ハロー）やマハロ（ありがとう）と言われる。色んなところでアロハスピリッツを見た。年末年始だったので多くの観光客が来ていたが、これならお金を払いたくなると感じた。改めて観光客の気持ちになったことで、あの空気感の中であれば、小さいものよりも良いものを買おうという気持ちになることがわかった。平良委員もおっしゃったように、なぜ沖縄なのか、沖縄で過ごしたい気持ちが何なのかというところを、もう少し言語化していくことが大事。消費は最後の手段であり、いい気分になったからお金を落としたいと思うのではないか。	P31 24～35行目	5⑴考え方に「⑤沖縄の優位性の活用」の項目を追加し、優位性について記載しました。
7	平良委員	考え方	沖縄県でものづくりをしている人たちには、手厚い助成がたくさんある。どこで買ったらいいのか、どこで売ればいいのかという課題について、これだけ手厚く事業者をサポートしているのにそこまで県がやる仕事ではない。事業者は、これだけ助成してもらっているのであれば、もっと積極的に売る努力をしなければならない。そこまでおぜん立てしてしまうと、それに乗っかってしまうので、事業者は依存して弱くなってしまう。助成金がなければ商品を作らないとなってしまっては困るし、助成金があるからむやみやたらに作る人もいる。県の仕事は提言をすることなので、空港でそのような機会があるなら、そこでやりたいと手を挙げてくるような強い事業者を育てていかないといけない。	P33 8～9行目	5⑴考え方・各主体の役割に、民間事業者の自立（自走化）ついて追記しました。
8	古屋委員	考え方	p.2について、⑤（各主体の役割）をここに書くのが適切なのか。後ろの方に持ってきた方がよいのではないか。	P32 41行目	5⑴「考え方」の最後に「各主体の役割」を配置しました。
9	古屋委員	考え方	（古屋委員pptの共有と説明） 情報提供と方針４のプロモーションに関して話したい。域内調達率を上げることは経済波及効果を上げていくということ。SDGsに関してガイドライン等でみるべき指標等が示されている。2023年７月頃にJICAとUNWTOによる「観光を通じたSDGsの達成に向けて」という、きめ細やかなアウトプット、アウトカムをこういう指標で評価したらどうかという分かりやすいテキストが発行された。今年１月に日本語版ができた。観光のバリューチェーンとそれを支える観光セクター・観光資源との関係性や、持続可能な観光のためのサブマーケットと指標との体系について示されている。	P32 11～40行目	5⑴「④SDGs施策との相乗効果」のあとに、コラム（説明）を追加しました。

第４回会議の委員意見反映箇所

	委員	提言書関連部分	意見要旨	提言書への反映状況	
				反映箇所	反映案
10	下地副委員長	㋐方針３・施策① ㋑考え方（各主体の役割）	一次産品の量を増やしていかなければ加工品にもまわらない。厳しい自然環境でかつ人手不足の中では、地域にあった技術力を強化することが必要。そのために学と連携して、テクノロジーをどう盛り込んでいくのか踏み込んで考えていかないといけない。そこがなければ、製造面でも県外企業に負けてしまう。事業者任せにできることではないので、金融と連携しながら施策を考える必要がある。また施策に依存することも良くないので、事業者に何を努力してほしいのか打ち出すべき。	㋐ P41 12行目～ ㋑ P33 8～9行目	㋐大学・研究機関や金融との連携に関して、方針３・施策①の導入文と取組例に追記しました。 ㋑事業者に関して、５⑴考え方・各主体の役割に、民間事業者の自立（自走化）ついて追記しました。
11	下地副委員長	㋐対応方針と具体的施策 ㋑方針３・施策②	資料３、考え方②～⑤が次ページ以降の方針にどのくらい盛り込まれているかが見えにくい。例えば、事業者の競争力向上につながる仕組みについては、大きな課題として生産性の向上がある。いくら調達率を上げると言っても生産性を挙げる仕組みになっていないと実現できない。人材不足やコスト高を踏まえて考えると、デジタル化や高度人材育成にどう取り組んでいくのかという、生産性向上の視点が問われてくると思う。	㋐ P33 28行目～ ㋑ P41 6～7行目 P41 20行目	㋐５⑵に方針と「④事業者の競争力向上の視点」・「⑤SDGs施策との相乗効果」との関係性を整理しました。 ㋑生産性向上やデジタル化については、方針３の導入文、施策②の導入文、取組例に追記しました。
12	下地副委員長	対応方針と具体的施策	SDGs施策との相乗効果について、持続可能な観光と世界から選ばれる観光の２軸で考える必要がある。持続可能な観光の視点の中でサービスと商品がどのように展開されていくのか。県においては方針１～４のすべてにSDGsを盛り込んでいかないと具合が悪いと思う。	P33 28行目～	５⑵に方針とSDGsの関係性を整理しました。
13	古屋委員	対応方針と具体的施策	JICAとUNWTOによる「観光を通じたSDGsの達成に向けて」のテキストのなかで、経済波及効果に関連するSDGｓと具体的アプローチについて整理した。域内調達率については、観光のバリューチェーンのなかで地域産品を増大させるためには、需給タイミングを合わせることや情報共有を進めること、教育研修を通じたキャパシティビルディングを高めること、小規模事業者のための資金調達プログラムの構築などについて記載されている。方針４が例えばSDGsとどういう風に紐づけされているとか、整理されるといいのではないか。	P33 28行目～	５⑵に方針とSDGsの関係性を整理しました。
14	古屋委員	方針１・施策①	資料３のp.1について、方針１はどういう点に立脚しているのか。ｐ.3の施策①は観光客マター、p.4施策②では宿泊施設・飲食店等という記述、施策③は域外調達率とあり、観光客や事業者の話が混在している。可能であれば、方針２と３に分けるとわかりやすいかもしれないし、セットにして議論するのであれば、もう少しわかりやすいネーミングがいいと感じた。	P34 ７行目	方針1・施策①の表題を変更しました。

第４回会議の委員意見反映箇所

	委員	提言書関連部分	意見要旨	提言書への反映状況	
				反映箇所	反映案
15	末吉委員長	方針１・施策②	域内調達率向上について、調査結果の中に、どこから県産品を仕入れたらいいか分からないというコメントがあったが、マッチングが重要だと思っている。宮古では商工会が主体となってホテルと生産者をマッチングしたと聞いた。先進事例も含め、こういう事例を県がリーダーシップを握って啓蒙していくべきではないかと感じている。	P34 17行目	方針１・施策②・取組例に反映しております。
16	林委員	方針１・施策③	沖縄だからこそSDGsに取組むべき。「SDGs施策との相乗効果」と書いているので、恣意的に取り組んでいるということを示すためにも、p.33の方針１・施策③についても、さりげなくSDGsという言葉をちりばめたりするなど、書き方を変えることで、積極的に打ち出した方がいいと思う。	P35 7行目	方針1・施策③の導入文にSDGsの視点を追加しました。
17	平良委員	方針１・施策③	施策3の「域外調達を代替する新技術の導入の検討等」について、加工製造の技術がないというが、大きな工場を立てるということは、島の観光にとって良くないのではないか。ハワイはしっかりゾーニングされている。	P35 7行目	方針１・施策③の導入文に「地域の実情を考慮した」を追記しました。
18	内藤委員	方針１・施策③	地域に食材があっても県内に加工する場所がないので、わざわざ県外に出して、作ったものを持ってきていることがある。沖縄は製造・加工が弱いので、食材の供給だけでなく、そのあたりも強くしていかなければならない。	P36 上部	方針１・施策③・取組例に反映しております。
19	末吉委員長	方針１・施策③	製造について、伊是名島のお土産屋では魚をさばいたものを冷凍して売っている。買って食べてみたが、ほぼ生のものと変わらない。漁協に聞いてみると、瞬間冷凍する機械と真空パックの機械を入れたということ。いろいろなアイディアで工夫している。	P36 上部	方針１・施策③・取組例に反映しております。
20	林委員	方針２	北部や離島は人口減少が危機的状況。例えば、伊平屋では、今の情緒を残しながら、沖縄に求められている観光とは何か、本質的な部分に目を向けましょうとなっている。ジャングリアに関しては、DX化も進めながら、労働不足や交通郊外にどうやって解決するか考えているところ。	P37・5行目 P40・9行目	方針２に離島に関する内容を追記しました。
21	内藤委員	方針２	離島の人口が減っているという話が気になっている。小規模離島では人口減少、高齢化も進んでいる。農林水産業がメインのところが多いが、流通条件が不利であり、サトウキビなどの生産に偏っている。観光客が来て消費が生まれれば、農林水産物も作るようになるし、宿泊業で働く人も離島に住むようになる。もう少し離島のことも入れ込めないか。	P37・5行目 P40・9行目	方針２に離島に関する内容を追記しました。
22	平良委員	方針１・施策②	加工品を作るのは大変だが、原材料を増やすことならできる。インドでは人口世界一の未来を見据えて、雑穀を作る施策を進めていると聞く。もともと沖縄にはヒエやアワがあったが、こうした廃れてしまったものを復興させることに県が支援をするなど、未来を見据えての提言であってほしいと感じる。	P37 21行目	方針１・施策①の導入文に「現在は利用されていない資源の活用促進」を追記しました。

第４回会議の委員意見反映箇所

	委員	提言書関連部分	意見要旨	提言書への反映状況	
				反映箇所	反映案
23	末吉委員長	方針２・施策②	空港等で並んでいる土産品はアイテム数の７割くらいが内地で作られていると考えている。とある事業者の芋けんぴは、観光客向けのパッケージとなっていて、売上の７～８割程度は観光客によるものと聞く。しかし製造は徳島県、芋も宮崎や鹿児島である。沖縄で製造ができれば15人程度の雇用が生まれるのではないか。また、別の事業者だが、東村のゴールドバレル（パイン）でお菓子を作ったところとても売れたようだが、製造は愛知である。これも沖縄で製造できれば20人程度の雇用が生まれるのではないか。こういうことができれば、観光を基軸とした域内経済の循環につながる。	P37 23行目	方針２・施策②・取組例に反映しております。
24	林委員	方針２・施策②	例えば、沖縄の食材を使った繊維や、パイナップルの葉を使ったカトラリーなど、沖縄資源を使いながら商品を製造している事例がある。そのような産品をみんなで共有して広げていけるといい。こうした商品や、新技術の開発も含めて、沖縄の持つ優位性をアピールしていくことも大切だと思う。	P37 23行目	方針２・施策②・取組例に反映しております。
25	下地副委員長	方針２・施策④	資料３P.6「施策④周遊型観光の推進に伴う滞在日数の延伸」は具合が悪い。我々が進めているのは滞在型の体験型観光であり、それにより滞在日数や消費を増やそうと取組んでいる。より深く沖縄を知ってもらう体験型観光であって、さっと観光するイメージの周遊型観光ではないはず。変えた方が良いと思う。	P40 2行目	方針２・施策④の「周遊型」を「滞在型」へ修正する等の対応をしました。
26	下地副委員長	方針３・施策①	各主体の役割について、産学官金（金融）に加えて医（沖縄の健康長寿を考えると医療）も観光を考えるうえで重要な視点。それぞれの役割をこの方針の中でどう盛り込んでいくのかという視点が大事。特に、県の事業として方向性を出すという点では、沖縄県がこの役割の中でどういう取組をしていくのかしっかり示せるとよい。	P41 12行目～	方針３・施策①の導入文と取組例に産学官金医の内容を追記しました。
27	玉城委員	方針３・施策①	日経新聞に、今までは県外のメガバンクが投資を握っていたので、県や市町村も大型のホテルが建つことは後々になってから知るということが多々あったと載っていた。今までお金が県外に吸い取られる仕組みになっていた。今回の北部テーマパークは、琉銀が中心となって投資を県内から集める仕組みを作った。県内の金融機関が儲かって県内に流れていく仕組み。そもそも、投資に県内の銀行や投資家が関わっていなかったのが大きな問題。金融業界との連携も大事だと思う。	P41 12行目～	方針３・施策①の導入文と取組例に産学官金医の内容を追記しました。
28	玉城委員	方針３・施策②	体験として文化を学ぶのはいいが、いい作品を作るための、伝統芸能を守るための本当に支援ができているのか。アーティストたちを支援できているのか。そういうところにしっかりお金を使った上で、観光体制を作っていってほしい。	P41 22行目	方針３・施策②・取組例に反映しております。
29	古屋委員	方針４	パートナーシップをつくるためには、観光客へのプロモーションだけではなく、観光による地域の貢献を、地元の住民や事業者など広範なステークホルダーにも共有することが必要不可欠ではないかと思う。 方針４に、ステークホルダー（利害関係者）の巻き込みや、アドボカシー（擁護・代弁、支持・支援）の調整などのキーワードを入れてはどうか。	P42 7～11行目 P44 3行目～	○方針４の導入文、施策②に利害関係者に関する内容を追記しました。

第４回会議の委員意見反映箇所

	委員	提言書関連部分	意見要旨	提言書への反映状況	
				反映箇所	反映案
30	末吉委員長	方針４・施策①	熊本の道の駅の事例があったが、そのようなところで沖縄の特産品をどんどんアピールしていくことはやらなければいけないと感じた。国の道の駅認定の有無に関わらず、各市町村にある道の駅ようなところを活用するのも一つの手だと感じた。	P42 19行目～	方針４・施策①の取組例に追記しました。
31	内藤委員	方針４・施策①	資料２の阿蘇の事例があったが、沖縄県でも地域農林水産物活用事業があり、先週行われた「沖縄食と花のフェスティバル」では「島フードグランプリ」というものがあり、出品された中から優勝賞などを決めていた。その商品の一部はデパートで販売されていることもあるが限定的である。阿蘇のように常設で売るようなところがあれば、旅行者が買う機会を与えることにもなる。地域ごとには道の駅という話もあったが、県全体のそのような品を集めて売るようなところがあるといいのではないかと思う。例えば、県主催イベントで賞を取ったものは空港でコーナー設けて１年間売るなど、そのような仕組みがあってもいいのではないか。	P42 19行目～	方針４・施策①の取組例に追記しました。
32	末吉委員長	方針４・施策①	11/1は泡盛の日で、泡盛を評価して県知事賞を決めている。新聞にも出るが、どこに行ったら買えるのかがわからないし、そもそも買うことができない。例えば、イオンやサンエーでそのような売り場を設けるなど必要。産業まつりも同じである。道の駅や海の駅を活用するのも大事。	P42 19行目～	方針４・施策①の取組例に追記しました。
33	下地副委員長	方針４・施策②	前提の話になるが、統計の精緻化を図っていかなければ実態と合わないと思う。域内調達率の調査結果があるが、事業者の感覚からも離れている気がする。観光消費額も大きくなりすぎていて事業者の感覚と離れている。一人当たりの消費額が昨年の夏は12万円を超えたと部長が話をされていたが、県内の事業者の感覚、国内の消費動向からみても上振れ過ぎて、この数字のマイナスの効果を心配している。	P44 2行目～	方針４に施策②を追加し、統計の精緻化に関する内容を追記しました。
34	下地副委員長	方針４・施策②	経済波及効果の考え方を見直していかなければならない。観光収入の中での歩留まり率がどのくらいなのかという実態を正しく把握していかなければならない。	P44 2行目～	方針４に施策②を追加し、統計の精緻化に関する内容を追記しました。